

ているのだ。



「僕はラグビーを通じて人生を学ばせてもらいました。ラグビー抜きで僕の人生は成り立ちません。ラグビーを通じて人に出会い、夢や憧れに出会い、夢は勝ち取るものだ」と知り、何者にも代えがたい体験をさせてもらい、とめどなく溢れる涙というものも知りました。感動が心を揺さぶり、心揺さぶられることで感性が育まれたのだと思っています。現役を引退したとき、自分が体験した感動を次の世代にも伝えたいと思って、感性教育をテーマに活動しています」

NPO法人ヒーローズを立ち上げたのは、そんな思いから。

全国各地で『ラグビー寺子屋』を開催し、小学生のラグビー大会『ヒーローズカップ』を主催して12年になる。優勝決定戦は横浜の日産スタジアム。子どもたちにとっては憧れの場所だ。そんな地道な活動が、小学生ラグーマン人口を増やし、今年の大会には250ものチームが参加す

るなど、ラグビー界の裾野を広げている。

9月のワールドカップに際して、ジョージアが鳴門でプレキャンプをする。

「僕は徳島を紹介しただけです」とあつさり言うが、彼の名前が海外のトップチームに知れ渡っているたまものでもある。

日本ラグビー界が生んだ名言、「one for all, all for one」。一人はみんなのた

めに、みんなは一人のために。

「感謝の気持ちがないと他人のことは考えられない。自分のこと以外のことを考えるというのは公共の心。そこに『和』の世界が生まれる」と林さんはいう。

感謝、思いやり、和。ラグビー界の名言はグローバルな今の時代にこそ、必要な言葉かもしれない。

(取材・文／北島由記子 写真／永井守)

